



日本SPF豚協会だより

Report of JAPAN SPF Swine Association 2012.10 第49号



提◆言

SPF豚差別化販売に向け一体となった取り組みを

日本SPF豚協会理事
株式会社西日本ジェイエイ畜産養豚事業部長

小椋 和典

わが国の景気は緩やかに回復しているといわれていますが、生産農場からは相変わらず厳しい状況にしか見えません。

今、畜産生産農場は、長期にわたる相場の低空飛行、飼料費の高騰等による経費増が続いており、経営継続が大変厳しい状況に置かれています。

「儲かる畜産」にするにはどうしたらよいのでしょうか？

当たり前のことですが、生産成績の向上、費用の削減、高単価での販売、これらが実行できるのなら経営は安定したものになります。

SPF種豚、SPF管理体制を導入すれば、生産成績は向上するでしょう。病気にかかりにくいことで、医薬品代の節約にもなるでしょう。飼料効率向上により飼料費も削減できるでしょう。しかし、それだけでは、儲かる経営は実現しにくくなっています。SPF豚であることが差別化になり、結果高単価で販売することができなければ、経営は安定しません。

「差別化による販売」をしたいけれど、豚を育てることはプロであっても、豚肉を売ることは素人、多くの生産者が最も苦手としていることではないでしょうか？

当社では養豚事業、養牛事業（肉牛）、採卵事業の3畜種の生産事業を展開しています。

養豚事業としては、県内3農場にて生産しており、鳥取県内で唯一SPF豚認定を受けている農場です。

県内では、当社農場以外でもSPF豚と同等の防疫管理体制にて飼育管理を実施している農場もありますが、SPF認定までは望んでいないようです。

当社の肉豚は、出荷頭数の50%弱が京都生協を中心に、地元鳥取県生協他への販売となっています。

特に、京都生協とは25年以上の長きに亘り取引が継続されており、現在ではグループ会社であるJA全農ミートフーズ(株)経由で販売しています。取引条件は、生産費用積上げを基礎とした再生産単価取引（年間固定）となっており、市場相場に左右されることなく、安定した価格で販売することができています。

現在では、JA全農ミートフーズ(株)と共に各種勉強会、試食宣伝等を実施し、協会パンフレット等も利用しながら「徹底した防疫管理体制、おいしさの理由」を、生協組合員さん（消費者）に伝えています。SPF豚の特長、良さを知ってもらうことが、取引継続、増加の一番の近道だと考えているからです。

しかし、商品の良さを宣伝していくことは、生産農場だけでは難しく、いかに販売組織と一体となって行動し、SPF豚の魅力をアピールしていくかが重要だと思います。

まだまだ「SPF豚」を知らない消費者は多く（ほとんどの消費者が知らないのかもしれませんが）、いかにしてSPF豚の名を全国区にしていくのか、考えなければならないと思います。せっかくすばらしい商品なのに、多くの人に知られていないのはとても残念なことです。

SPF豚であれば、差別化を図ることができ、安定価格で取引することができる。そんな商品にしていくことに、生産者、販売関係者、SPF豚協会が一体となって取り組み、進めていけたらいいのではないかと思います。

S P F 豚セミナーを開催します

11月6日(火) 東京・KKRホテルで

一般社団法人日本S P F豚協会では、今年も恒例のS P F豚セミナーを開始いたします。

11月6日(火)午後1時より、会場は例年同様KKRホテル東京(東京都千代田区)です。

このセミナーは、協会会員はもちろん、どなたでもご参加いただけます。

今回は、毎年恒例の認定農場の生産成績年次報告や優秀CM農場表彰のほか、二つの講演を予定しております。次ページをご参照ください。

一つ目の講演は、(株)新原産業代表取締役・新原弘二氏にお願いしています。

新原産業は宮崎県に本社があり、農畜産施設・設備・資材の総合メーカーとして35年以上の実績を誇ります。新原社長は豚舎建築のプロフェッショナルとして、豚舎の快適性を向上させるノウハウについて、雑誌の連載もされています。

養豚を取り巻く環境が厳しさを増すばかり現況では、新たな設備投資は困難なことから、「経費を抑えて既存豚舎をレベルアップする改造ポイント」について、お話しいただきます。

二つ目は、日本養豚学会会長でもある麻布大学獣医学部の押田敏雄教授による講演です。

押田先生は家畜衛生学の専門家として教鞭をとるかたわら、一般の人にもわかりやすい『Dr. オッシーの意外と知らない畜産のはなし』等の著書も執筆されています。今回は豚を中心に、畜産全般にわたる幅広い、知って得する、とっておきのお話をご披露いただきます。

その他、認定農場の年次報告は、CM農場の生産成績の推移、傾向などを分析、発表するものです。現行の集計方法になって8年、各農場にはベンチマーキング等にも役立てるよう、フィードバックしています。



昨年のセミナーの様子

CM認定農場全体の特徴などを毎年集計して報告、貴重なデータの集積となっています。

また、生産成績優秀農場の表彰は、回数を重ね今回で6回目となります。

これは、認定の際の総合生産成績指数が、3年間連続して上位25%に入っていて、かつA薬品費の使用が基準値を下回っているCM農場を対象にデータを集計し、3年間の指数の平均が最高の農場を「総合生産成績最優秀農場」に選出、また、同様に1母豚あたりの肉豚出荷頭数が3年間の平均で最も多かった農場を「商品化頭数最優秀農場」として、それぞれ表彰するものです。ここ数年、同じ農場が両部門の栄冠を独占していましたが、先日行われた選考委員会での選考の結果、受賞農場に変化がありました。当日は選考委員長である柏崎守・S P F豚農場認定委員会委員長に講評いただき、協会会長より表彰状と記念のトロフィーが授与されます。

セミナー終了後、同じ会場でS P Fポークをご賞味いただける懇親会も開催いたします。

毎年大変なご好評をいただいている、認定農場産S P Fポークのしゃぶしゃぶをはじめ、骨付きハムや生ハム、ソーセージ等の加工品も多数ご用意いたします。あわせてご参加ください。

会員の方はじめ多くの皆さんにぜひご参加いただきますよう、ご案内申し上げます。

平成24年度SPF豚セミナー開催要項

日 時 平成24年11月6日 (火) 13:00~17:00

場 所: KKRホテル東京 (地図参照) 11階「孔雀の間」

<プログラム>

- 開会のあいさつ
- 「認定農場の生産成績年次報告」 講師: 藤田 世秀・日本SPF豚協会専務理事 13:10~13:40
- 講演Ⅰ「経費を抑えて既存豚舎をレベルアップする改造ポイント」(仮題) 13:40~14:40
講師: 新原 弘二・(株)新原産業代表取締役
- 休 憩
- 生産成績優良農場表彰式 ・生産成績上位農場の解説 15:00~15:30
・選考結果報告、講評
・表彰 (表彰状・トロフィー授与)
総合生産成績最優秀農場
商品化頭数最優秀農場
- 講演Ⅱ「意外と知らない畜産の話」(仮題) 15:30~17:00
講師: 押田 敏雄・麻布大学獣医学部教授 (日本養豚学会会長)
- 閉会のあいさつ

会 費: 無 料

◆懇親会◆ 17:30~19:30

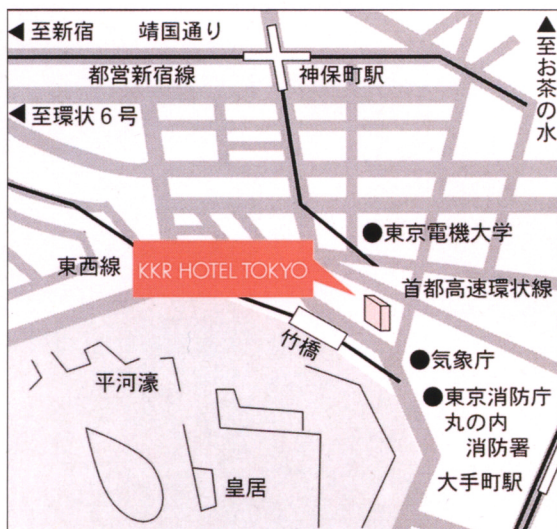
・会 費 5,000円

<お申し込み方法>

同封の申し込み書にて下記までFAXでお申し込み下さい。

●申込期日 10月30日(火)まで

※定員 (150名) になり次第締め切らせていただきます。



お申し込み・お問い合わせ先

日本SPF豚協会

FAX 03-5835-5376

〒101-0032 東京都千代田区岩本町1-8-2
ニューセンチュリービル7F
TEL 03-5835-5375

KKR HOTEL 東京

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-4-1

TEL.03-3287-2921 FAX.03-3287-2998

交通のご案内

●地下鉄東西線竹橋駅3B出口から専用通路 ●首都高速環状線神田橋出口から2分 ●J R 東京駅(丸の内口) から車で5分

レンサ球菌症②

東京農業大学教授 山本 孝史

混合感染：前回述べましたように、*S. suis*の強毒株が上部気道に存在しても発症するのは5%以下とされていますが、*Bordetella bronchiseptica*、オーエスキー病ウイルス、PRRSウイルス等が混合感染すると発症率は高まります。中でもPRRSウイルスは発症の引き金としての役割が大きく、鼻腔に*S. suis*と同時接種すると表1に示すように、*S. suis*による疾病の死亡率が1/10(10%)から5/10 (50%)へと増加しています。同様に胎生期にPRRSウイルスに感染して生まれた子豚においても*S. suis*に対する感受性が増大し、PRRSウイルスに感染していない子豚を*S. suis*で攻撃しても死亡率は5/23(22%)であったのに対して、胎生期にPRRSウイルスに感染した子豚では20/22(91%)でした(表2)。このようにPRRSウイルス感染は*S. suis*の発症率を高める大きな要因です。

ヒトの感染：傷口から*S. suis*が感染することにより発症しますので、養豚や食肉処理に携わっているヒトが感染します。串焼店の従業員が豚肉や豚の内臓を串に刺す際、誤って手を刺して感染した例も報告されています。初期の症状は発熱、倦怠感、嘔吐などで、その後、頭痛、幻視、傾眠傾向、重症例では皮下出血、毒素ショック、昏睡等へと移行します。早期に抗菌薬を投与すれば治癒しますが、遅れると敗血症で死亡すること

表1 PRRSウイルスと*Streptococcus suis*の混合感染

攻撃	発熱	呼吸異常	神経症状	死亡率	<i>S. suis</i> の回収
<i>S. suis</i>	0/10	0/10	0/10	1/10	0/10
<i>S. suis</i> + PRRSV	6/10	9/10	5/10	5/10	6/10
なし	0/6	0/6	0/6	0/6	0/6

(Galina, L. et al., Vet. Rec., 134, 60-64. 1994)

表2 子宮内でPRRSVに感染した子豚に対する*Streptococcus suis*の実験感染

試験区	攻撃		子豚の		
	母豚	子豚	ウイルス血症	発熱	死亡率
1	なし	なし	0/20	0/20	0/20
2	なし	<i>S. suis</i>	0/23	5/23	5/23
3	PRRSV	なし	18/18	9/18	1/18
4	PRRSV	<i>S. suis</i>	21/22	14/22	20/22

(Feng, WH. et al., J. Virol., 75, 4889-4895. 2001)

もあります。わが国では1979年に島根県で初めて報告されてから多数の都道府県で報告されていますが、すべて単発発生であり、これはどの国でも同様でした。しかし、中国四川省では2005年6月から8月にかけて、養豚や食肉処理に携わる215名が感染しそのうち39名が死亡するという事例が報告されました。なぜこのような大規模な発生が起き、また高い死亡率を示したのかは明らかになっていません。

対策：本病は、子豚の生体防御機能が低下した時に発症する日和見感染症的色彩がきわめて強い疾病ですので、飼養管理が対策の基本となります。すなわち、常に豚舎の洗浄・乾燥を心がけ、密飼を避けて、適切に換気し、豚群の組換えや移動は最小限度に留める等により、子豚にかかるストレスをできるだけ緩和してやります。また発症の引き金となるPRRS等の他の疾病対策を講じるとともに、新たな豚の導入に際しては隔離・検疫を徹底して農場に新たな病原体を持ち込まないようにします。

S. suis 2型を予防する不活化ワクチンが市販されています。しかしわが国では*S. suis* 2型によるレンサ球菌症が最も多いとはいえ、それでも1/4程度ですので他の3/4のレンサ球菌症は対象になりませんし、2型に対する防御効果も絶対的なものではありませんので、予防の基本はあくまで飼養管理におくべきです。

本病が疑われたら直ちにペニシリン等のβ-ラクタム系薬剤を注射して治療を開始すれば治療可能です。この際抗炎症剤であるデキサメタゾンを同時に投与すると治療効果が上がることが報告されています。治療は5日間は続けなければなりません。

<参考文献>

Staats, J. J. et al. (1997). *STREPTOCOCCUS: PAST and PRESENT*. Vet. Res. Comm. 21, 381-407.

豚舎周辺に生息するハエ類Ⅲ

イカリ消毒(株)技術研究所 木村 悟朗

前々号、前号では、主要な非吸血性ハエ類に注目してきました。今回は豚舎やその周辺で重要な吸血性ハエ類とカ類の形態的特徴や生態についてまとめます。

サシバエ類

サシバエ類はサシバエ亜科に属するハエの総称であり、日本では3属5種が知られています。これらはすべての種が吸血性で、家畜糞から発生します。特に、サシバエ(写真1)は個体数が多く、しばしば害虫となります。日本全土に広く分布し、成虫はウシやブタなどの家畜を吸血し、ヒトを吸血することもあります。体長は雄3.5~6.5mm、雌5.0~8.0mm、硬化した口吻は先端に向かって細く尖り、吸血に適しています。雌の複眼間は雄よりも離れているため、雌雄は容易に区別することができます。小顎髭は口吻と比べて著しく短く、腹部背板第3~5節に円型斑があります。本州において、成虫は5月頃から発生し、数回の発生を繰り返して秋にピークとなります。サシバエは雌雄ともに吸血し、1回の吸血量は約15mgです。成虫は1回の産卵のために少なくとも2回の吸血を必要とし、1回の産卵数で約20個、総産卵数は300~500個です。幼虫は家畜糞から発生しますが、放牧地の糞よりも、畜舎でわらの混じった糞から発生しやすいことが知られています。豚舎で発生するハエ類に関する研究で、サシバエはヒメイエバエ、オオイエバエなどとともに捕獲数が多いことが報告されています。暖地では、幼虫、蛹、成虫での越冬が可能です。

サシバエは成虫と幼虫ともに、25~28℃、湿度75~95%RHが好適な発育環境です。28℃条件下におけるサシ



写真1 サシバエ成虫 (蒔田増美氏原図)



写真2 コガタアカイエカ成虫 (玉城美香子博士採集標本)

バエの卵から成虫羽化までの期間は11~16日、成虫期間は10~27日、雌産卵前期間は8~15日です。

サシバエの吸血による被害は、①吸血による痛みがストレスになり、生産性が低下(受胎率や増体に影響)、②多数の吸血による貧血や吸血部位の損傷・感染、

および③病原体の機械的媒介などがあります。

カ類

わが国のカ類は110種程度が知られていますが、それらの中で衛生上重要な種は限られています。家畜を吸血するカ類のうち、コガタアカイエカ(写真2)は特にブタを好んで吸血し、ウシ、ウマなどの大型哺乳動物からも吸血します。一方、ヒトは好んで吸血されません。本種は日本全国に分布し、主に水田から多数発生し、池沼、灌漑溝、湧水などからも発生します。成虫は体長4~5mm、体色は暗褐色、吻の中央に白帯があります。雌の小顎髭の末端は白色、脚の腿節、脛節、^{たいせつ}跗節^{けいせつ}に白帯があります。成虫は夜間活動性で、昼間は水田や雑草の茂みで休息しています。本種の移動距離は2~8kmであり、分散力が大きいことも知られています。本種は羽化3夜以降に吸血し、吸血48時間後には成熟卵が形成されます。雌は通常200卵から細長い卵舟として水面に産卵します。吸血4~5日後、吸血のために再飛来します。25℃条件下における卵期間は2日、幼虫期間8~10日、蛹期間1.5日です。秋に羽化した雌は吸血しないで越冬します。

コガタアカイエカは日本脳炎の主要媒介蚊です。日本脳炎ウイルスはカ⇒ブタ⇒カの感染環で維持され、ヒトは⇒ブタ⇒カ⇒ヒトで感染します。ブタは肥育期間が短いために毎年感受性のある個体が多数供給されること、血液中のウイルス量が多いことなどから主要増幅動物となっています。わが国の日本脳炎患者報告数は、ワクチン接種の推進、媒介蚊に刺される機会の減少、生活環境の変化等により、その数は著しく減少しています。しかし、西日本を中心に毎年広い地域で抗体陽性のブタが確認されています。今年、沖縄県では日本脳炎流行注意報が、2008年以来4年ぶりに発令されました。

<参考文献>

愛知県東部家畜衛生保健所ホームページ(2012)養豚場でもサシバエ対策を! (2012年8月15日閲覧)、早川博文(1991)サシバエ、昆虫の飼育法(湯嶋 健・釜野静也・玉木佳男編) pp. 358-359. 日本植物防疫協会、東京、林 晃史・篠永 哲(1979)ハエ生態と防除. 210pp. 文永堂、東京、上村 清(2001)コガタイエカ. 原色ベストコントロール図説Ⅴ(日本ベストコントロール協会編) pp. 246-254 日本ベストコントロール協会、東京、上村 清(2009)日本産蚊科の種目録. 有害生物 6: 24-43. 国立感染症研究所ホームページ(2012)日本脳炎.(2012年8月15日閲覧)、国立感染症研究所ホームページ(2012)日本脳炎Q&A.(2012年8月15日閲覧)、松崎沙和子・武衛和雄(1993)都市害虫百科. 236pp. 朝倉書店、東京、篠永 哲(1995)サシバエ. 原色ベストコントロール図説Ⅲ(日本ベストコントロール協会編) pp. 43-143-6 日本ベストコントロール協会、東京、和田義人・篠永 哲・田中生男(1990)ハエ・蚊とその駆除. 174pp. 日本環境衛生センター、神奈川。

●協会からのお知らせ●

●今年もちくさんフードフェアに出展します！ 10月6（土）、7（日）川崎：食肉流通センター

協会では日本食肉流通センター主催「ちくさんフードフェア2012」（10月6日（土）～7日（日）、川崎市・日本食肉流通センター敷地内）に出展いたします。

ちくさんフードフェアは「川崎みなと祭り」と同時開催されるもので、会場では東北応援イベント、野外バーベキュー、牛・豚肉の展示・販売、全国味めぐりコーナー、地域物産展、家畜ふれあい牧場、大学ちくさんフードコーナーなど盛り沢山の催しがあります。昨年は天候にも恵まれ、12万人近い来場者となりました。

協会は昨年に引き続き3度目の出展となります。SPF豚普及・PRのためのパネル展示、アンケート調査、パンフレットの配布、SPFポークの販売情報提供の他、「SPFポークのしゃぶしゃぶ」の試食を予定しております。毎年協会の試食は大好評を博しており、ブース前は長蛇の列となります。

入場は無料です。JR川崎駅より無料の会場直行バスが運行されており、無料駐車場も完備されています。

すでにご案内もお送りしておりますが、お誘い合わせの上ぜひご来場いただき、協会ブースにお立寄り下さい。

ご不明な点等は事務局までお問い合わせください。

皆さまのお越しを



昨年のフードフェアの様子

お待ちしております。

日時：10月6（土）、7（日）10：00～16：00

場所：（財）日本食肉流通センター

川崎市川崎区東扇島24

TEL. 044-266-1172

<http://www.jmtc.or.jp/jmtc2/annai/annai1.html>

<交通機関のご案内>

●JR川崎駅東口・京急川崎駅より
会場直行無料バスが出ます

市営バス11番のりばより随時運行

●無料駐車場完備

川崎市街から約30分

（国道132号線、海底トンネル）

首都高速湾岸線東扇島出口から約8分

●認定情報●

●平成24年度認定農場

[9月認定]（有効期間：平成24年9月13日から25年9月末日まで）

北海道・ササキSPFファーム、(有)山中畜産長沼農場、(有)浅野農場、(有)道南アグロ栗山農場、岩手県・全農畜産サービス(株)東日本原種豚場、(有)ケイアイファーム北上

農場、(農)八幡平ファーム、秋田県・全農畜産サービス(株)秋田SPF豚センター、(有)ファームランド、(株)ナカシヨク八竜繁殖農場、同大口繁殖農場、同能代離乳農場、山形県・(株)ナカシヨク庄内繁殖農場、同庄内肥育

SPFポークのとろとろローストポーク

●レシピ提供・「ひこま豚とまごころ料理 澤」店主 西澤一暢（北海道札幌市）

今回は角煮のような和風テイストなのにハーブの香りも際立つローストポークを教えていただきました。とろとろの食感と肉の旨味をたっぷり含んだ粒マスタードソースが絶品です。

●材料●

SPF豚ロースブロック 500g
ドライバジル（市販のもの）
ドライオレガノ（市販のもの）
ドライセージ（市販のもの）
塩
ブラックペッパー（あらびき）

<ソース>

肉の焼き汁と水 合わせて540cc
粒マスタード 20g
酒 大さじ1
塩 小さじ2分の1
しょうゆ 大さじ4
みりん 大さじ4
水溶き片栗粉 適宜



●作り方●

- ① 肉に塩、ブラックペッパーを少し多めにまんべんなくすり込み、ラップに包んで1時間ほど常温に置きます。
- ② フライパンを弱火にかけ、①を脂の方から丁寧にカリッと焼きます（脂以外はさっと色が変わるくらい）。
- ③ オープンの鉄板にアルミホイルを敷き②を乗せ、バジル、オレガノ、セージをたっぷり振りかけホイルで包みます。
- ④ オープンに入れ余熱なしの200度で約40分、その後110度に温度を下げて30分焼きます。
- ⑤ ④のホイルにたまった肉汁と水を合わせて鍋に入れ、ソースの調味料を加えて煮立たせます。水溶き片栗粉でとろみをつけ、切り分けたお肉にかけて完成です。

【西澤シェフからのアドバイス】

肉を余熱なしのオープンで焼くことでゆっくり火が入り、焼き上がりがやわらかくジューシーに仕上がります。

●認定情報●

農場、同鶴岡肥育農場、宮城県・(株)シムコ岩出山事業所、茨城県・常陽発酵農法牧場(株)、東京養豚農業協同組合岩井牧場、オヌマファーム、山本ファーム鹿嶋、(有)米川養豚場、栃木県・サンエス大渡農場、(有)K&Tコーポレーション、群馬県・(有)ほそや、長野県・長野県農協直販(株)SPF種豚センター、(有)岩垂原エスピーエフ農場、(有)タローファーム、(有)クリーンポーク豊丘農場、(農)エスピーエフこがねや第一農場、千葉県・岡野朝雄養豚場、(有)東海ファーム倉橋本農場、同猿田農場、同第2肥育農場、同第1肥育農場、(有)菅井物産飯岡SPF農場、(有)下山農場第1農場、同飯岡農場、埼玉県・(有)松村牧場、新潟県・(株)ナカシヨク荒川繁殖農場、同中

条離乳農場、同下田肥育農場、同長峰肥育農場、同上中山肥育農場、鳥取県・(株)西日本ジェイエイ畜産矢下繁殖農場、同上馬場肥育農場、同上馬場一貫農場、愛媛県・JA全農愛媛県本部広見種豚増殖センター、香川県・(株)七星食品多和ファーム、大分県・(有)九重ファーム、熊本県・(有)高森農場、宮崎県・(株)ファームテックえびの種豚場、(株)守山畜産、鹿児島県・(株)シムコ鶴田事業所、(株)ファームテック大口農場、(有)新留養豚、鹿児島いずみ畜産(株)江内農場、そお元気(株)ファーム野方農場、高山大規模実験農場生産農場、同肥育農場

(以上59農場)

※次回認定委員会は平成24年12月6日(木)の予定



(有)鮭川ピッグファーム
矢口 喜幸さん
●山形県鮭川村

「おいしい」といってくれる人たちのために!

鮭川村は山形県の北部、最上圏域北西部に位置し、東西20km、南北12kmにわたる総面積122.3kmの農山村です。そんな鮭川村の緑豊かな地域、に母豚規模450頭の(有)鮭川ピッグファームがあります。

農場の前身である矢口養豚が昭和47年に母豚25頭による養豚一貫経営を開始、以来規模拡大を続けて平成16年、現在の農場を立ち上げ今に至っています。

S P F 養豚に取り組んだのは、豚舎移転に伴い、豚本来の能力を発揮させるためにはS P F 豚しかないという考えから導入を決意しました。

喜幸さんは同農場の専務。高校卒業後、山形県立農業大学校に入学しました。専攻科目は野菜でしたが、大学校で学んでいるうちに養豚にも徐々に興味をもち始めたそうです。卒業後は、すぐに養豚業を始められ、今年で17年目になります。「やはり小さい頃から豚がいたから」と喜幸さん。幼いころからご両親の姿を見て、豚に親しんできたことが伺えます。

喜幸さんが日々の作業で心がけているのは、「基本を大事にする」こと。「基本が出来ないと応用が出来ないと思うので…。そうはいつでもその基本を維持するのがなかなか大変ですが」。

基本を大事に、「年間1万頭以上の肉豚出荷」を目標



に掲げ、日々の作業に取り組んでいます。

農場では、豚舎内でラジオをかけ音楽を流すなど、こだわった飼養管理を行っています。私たちも音楽を聴いて気分がよくなるのと同じように、豚舎内の豚たちも心なしか気分よさげで、いきいきと丈夫に育っているような気がします。

喜幸さんは妹さん2人の3人兄妹。現在はご結婚され、奥さんと4歳の娘さんとの3人暮らしです。趣味は読書だそうです。日々の農場作業が生活の中心となっていて、どうしても思ったように時間が取れないとのことでした。また、お酒を飲むのが好きで、1日の仕事を終えての一杯が何よりの楽しみだとか。

今後の経営目標について伺ったところ「養豚業もとても厳しい時代ですが、『ここの肉がおいしい』といってくれる人たちがいる限り、がんばりたいですね。生産性にしても、まだまだ改善できる余地があるので、1つ1つ改善していき、生産性でトップクラスの農場になれるような経営を目指していきたい」と力強く語っていただきました。今後の活躍が期待されます。

(全農畜産サービス(株) 高野 大)

編集後記 S P F 豚の持つ潜在能力はどのくらいなのか?繁殖性、産肉性、飼料効率等々。過去8年間の認定CM農場の最高成績(農場平均値)をみると、農場飼料要求率2.65、1母豚あたり年間哺乳開始頭数30.43頭、同肉豚出荷頭数26.83頭です。母豚個体別だとどのくらいの成績が出るのかワクワクします。この数字を目標にするのは大変ですが、努力する甲斐はあります。農場の管理フローをもう一度精査し第三者の目で見つめ直す、従業員と話し合う、そんなことが管理者のレベルアップにつながります。慣れが一番の敵、日々新しいのです。(世)



日本S P F 豚協会認定農場産シール
このマークは
日本SPF豚協会の
登録商標です

日本SPF豚協会だより

第49号 2012年10月1日発行(季刊)
発行 一般社団法人 日本S P F 豚協会
〒101-0032 東京都千代田区岩本町1-8-2
TEL.03-5835-5375 FAX.03-5835-5376
e-mail : j.spf.a@nifty.com
http://www.j-spf.com/
発行人 北島 克好
編集人 藤田 世秀